

パネルディスカッション2

炎症性腸疾患の最新治療の現状と今後

司会 渡辺 守（東京医科歯科大学消化器内科）

緒方 晴彦（慶應義塾大学医学部内視鏡センター）

IBDにおいて抗TNF α 抗体製剤の登場により治療成績は劇的に向上した。しかし、二次無効対策や免疫調節薬併用の適否、抵抗例における手術のタイミングなど課題も浮上している。一方、新規薬剤として抗IL-12/23抗体製剤、JAK-1阻害剤、抗 $\alpha_4\beta_7$ integrin抗体製剤などが次々と承認され、その効果と位置付けなど治療方針が複雑化している。現行の生物学的製剤の使用成績、薬剤の優先順位や他剤併用の可能性のみならず、バイオマーカーを含めた評価方法も含め理想的なIBDの治療戦略につき議論を深めたい。